



◇特集 また行きたくなる左京図書館に
◇Report けやき総会・
図書館懇談会・ポラン
ティア交流会

特集

また行きたくなる左京図書館に

「久しぶりに左京図書館に行ったら、本の展示コーナーが増えていたよ。」
「インターネット予約した本を受け取りに行ったら、山登りの本の展示が眼に入って、思わず手にとって見ました。」
「今度はどんなテーマの展示かなと、楽しみ。館内の飾りや掲示にも職員さんのやる気が感じられたわ。」

そんな利用者の声が聞こえる、最近の左京図書館。そこで、今号の特集では古川図書館長に運営の工夫など最近の取り組みを紹介してもらいました。また左京図書館と共に歩んでいる図書館友の会「けやき」のメンバーが最近の左京図書館で感じたことを綴りました。移転開館以来14年にわたって左京図書館に「提案・協力」してきたけやきの活動の経緯も紹介しています。

厳しい財政状況の中でも、前向きな変化が見て取れる左京図書館。大いに利用し、よりよい図書館となるよう関心を持ち続けたいと思います。

左京図書館の最近の取り組みについて

左京図書館長 古川 勝英

左京図書館は、「ぜひ行ってみたい」「何度も行ってみたい」と思っただけの魅力的な図書館でありたいと願っています。そのため、笑顔・親切・丁寧な対応に努め、気持ちよくご利用いただくとともに、館内で新しい発見や出会いを楽しんでいただけるよう、カウンター職員が中心になって意見を出し合い、新たな催しの実施や特設コーナーの設置、情報発信機能の充実などを進めています。

今回は、最近の取り組み等について、ご紹介をさせていただきます。

1 「本の福袋」の貸出し

「本の福袋」の貸出しは、図書館の本を中身がわからないように包装して貸出しすることで、利用者の皆様に日頃、自分では選ばないような本との偶然の出会いを楽しんでいただこうという企画です。

クリスマスの時期に、利用者みなさんに喜んでいただけることができないか、どきどきわくわくしていただ

る図書館ならではの企画ができないかということで、職員から発案されました。

左京図書館で実施するにあたっては、職員が手分けしてテーマや年齢層などに合わせて2冊ずつ本を選び、クリスマスプレゼント風に包装するとともに、おすすめの年齢層や中身の本のヒントをカードにして包みの表に表示するなど、手にとっていただきやすいように工夫しました。

また、包装紙は、使用済みの封筒を切り開いて裏返して使用することとし、何日も前から準備を進めました。当日の展示場所についても、カウンター前に職員総出でテーブルを引っ張り出してきれいなキルトで覆うなど、楽しみながら手作りで完成させました。

来館者のみなさんの反応も予想以上によく、用意した33セットは1セットを残して全てお借りいただくことができました。

ご利用いただいた方からは、「今まで読むことのなかった本と出会えてよかった」「読んでみたらとてもおもしろかった」「またやってほしい」など、高い評価をいただくことができました。

2 情報コーナーの新設、チラシ等配架スペースの増設

図書館には、京都市の各部局から届く資料やチラシ・パンフレットなど、様々な情報が集まってきます。これら図書館にある情報をもっと利用していただくために、行政情報コーナーの移設・拡充、チラシ等配架スペースの増設を行いました。

まず、手始めに昨夏、館内のチラシやパンフレットの展示・配架場所の増設を行いました。見やすく・手に取りやすくに心掛け、副館長が中心になって改善を進めたところ、以前はあまり減らずに残っていた小冊子等が在庫切れになるなど、大きく利用が伸びました。けやきさんのニューズレターも気が付くとほとんどなくなっていて、急いで増刷したこともあります。

また、1～2月の図書館ネットワークシステム更新に伴う臨時休館中に、自動ドアを入れてすぐ右の場所に「行政情報コーナー」を移設し、掲示板及びチラシ等の配架台の増設を行いました。ここには主に、行政関係の資料や地域に関係するポスター・チラシ等を配置しています。目立ちにくい場所にも関わらず、ポスターを眺めたり、チラシを手にとられたりしている利用者の方をよく見かけます。

3 図書展示コーナーの新設・増設

カウンターでのお問い合わせが多い本などについては、特設コーナーを設置して展示方法を工夫するなど、来館された際に、目に留まりやすく、選んでいただきやすいようにしています。

①テーマ展示コーナー

カウンター前のロビーに、職員がテーマを決めて選んだ本を面出し展示できる「テーマ展示コーナー」を新設しました。本や飾りつけを立体的に配置することで、展示を3方向から楽しんでもらえるように工夫しています。利用者のみなさまの目に留まりやすい場所ということもあって、展示本はすぐに借りられてしまうことも多く、職員がその補充に追われるなど、うれしい悲鳴を上げるほどの好評をいただいています。

②子育て支援コーナー

現在、子育てに奮闘中の職員からの提案で、絵本コーナーの向かい側の書架の一角に、子育てに関する本を集めたコーナーを設置しています。「子どもから目を離さずに

子育ての本が選べる」「絵本の近くにあるので子どもが絵本を見ている短い間に本を探ることができる」と喜ばれています。

③児童雑誌コーナー

絵本コーナーの窓側の書架の上部に以前から「こどものとも」などの児童雑誌を面出しで展示していましたが、今年度から「ちいさなかがくのとも」の定期購読も開始したことに伴い、展示スペースを拡充しました。以前より、目に留まりやすくなったためか、よく借りていただけるようになったと感じていますが、おかげでコーナーにほとんど本がないというときもあります。

④時代小説文庫コーナー

従来から利用の多い時代小説のうち文庫本を集めて、新着本コーナーの一角に「時代小説文庫コーナー」を設けました。文庫本ばかりのコンパクトなコーナーで、場所的にもベンチに座ったまま見渡すことができるため、気楽に本を選んでいただければと期待しています。

⑤外国語の本コーナー

以前は、絵本コーナーの向かい側の書架にあったのですが、外国語の本は色もカラフルで、子どもから大人まで楽しんでいただける本も多いため、以前、行政情報コーナーのあった書架に移動しました。「こんな本もあったんですね」「見つけやすくなった」と喜んでいただいています。まだ若干書架に余裕があり、これから少しずつ充実させていきたいと考えています。

以上、新しい取り組みや比較的大きな変更部分をご紹介させていただきましたが、それ以外にも、館内の案内表示等の見直し、ミニ展示スポットの増設や児童閲覧席付近の窓飾りの充実など、来られるたびに新しい発見をしていただけるようにと工夫を続けています。

また、クリスマスや子ども読書の日記念のおたのしみ会に歌や楽器の演奏、英語の読み聞かせなどを取り入れたり、「図書館で発表会」「中学生による本の紹介展示」の展示期間延長など、けやきのみなさんの御支援御協力もいただきながら、事業の充実を進めています。

左京図書館の催し物の予定や新しい取り組み、イベント当日の様子などは、随時ホームページでご報告させていただきますので、これからも左京図書館をよろしく願いたします。

けやきを感じる左京図書館の今

図書館の雰囲気

10人いれば10の個性があるように、京都市内の図書館にもそれぞれ特徴があります。大きく二つに分けて考えてみると、一つめに数字として誰の目にも明らかに分かるものがあります。それは、利用者数、貸し出し冊数のように、主に利用者側に起因するものです。もう一つは使い勝手、雰囲気など数字には出て来ないものも各図書館の重要な特徴ではないでしょうか。

我が家では、楽しむ対象としてはもちろんですが、資料として使うための本を求めて借り出すことも頻繁にあります。そういう時は急ぐことが多く、他館から左京図書館に取り寄せてもらうのではなく、直接市内の各図書館へ出向きます。

府立を含め、市内のほとんどの図書館を利用して感じることは、「左京図書館は、職員の方の対応も丁寧で明るく、とても良い雰囲気だ。」と言うことです。左京図書館は、利用者数、貸し出し冊数も、地域館でありながら中央館並もしくはそれ以上と数字の上で明らかです。特にインターネットによる他館からの取り寄せの割合は多くなっています。つまり、限られた職員数の中で多くの仕事をこなさなければならない、ということです。

やらねばならない仕事が多いと、雑になったり人との対応がぶっきらぼうになったり、良い雰囲気が醸し出せなくなってしまうのが人の常ではないかと思えます。が、左京図書館はいつ行っても明るく和やかに私達を迎えてくれます。それは、館長を始め、職員の方々の利用者の立場に立った努力に拠るところが大きいのではないのでしょうか。

職員の方々の目には見えない努力を感じつつ、私達も共に気持ちの良い図書館を作っていこうではありませんか。まず、休館日の翌日の返却ボックスの整理をできるだけ少なくするよう、開館時間内に直接返却できるようにしていきたいですね。(特に第2、第4火、水曜日の連休明けは返却ボックス内の整理にかなりの時間、労力が必要になるようです。)

(増井)

地域情報が充実しましたね

図書館に入ると、以前と違い「地域情報」のスペースが多くなっていることに気がつきます。京都市職員採用の募集などの京都市の広報紙、京都市の施設の講座や催しの案内、環境月間にちなんだ本の展示と催しなどです。

また紙芝居の棚の裏に回ると、「左京区」に関係のある新聞記事の切り抜きもあり、地域とのかかわりに目を向け

た掲示を心がけておられることがうかがえます。さらに今まで雑誌コーナーの近くにあつてゆっくり見ることのなかった「行政資料」が入り口近くに移動されています。数冊ですが、表紙を見せて置かれていて、『岡崎・南禅寺界隈の庭の調査』(平成23年度)という報告書に目が止まりました。

有名な庭の写真集ではなく、京都市内未指定文化財庭園調査報告書で、調査目的や現地調査、文化的価値などの項目を設け、丁寧に調査され、まとめられています。資料編では一つ一つの庭園の写真だけでなく地割図や都市計画図も多数あり、今までこのような報告書を手にするのなかった私は、作庭当時の石や植物の配置などを想像しました。今後、このような地道な調査が岡崎の地域にどのように反映されるのか、期待が膨らみます。

この報告書は「館内での閲覧」ということでしたが、司書の方に相談すると、他館から借りていただけることになり、説明をゆっくり読んで実際に訪れて見たいと思います。

(北園)

おたのしみ会に携わって

左京図書館のおたのしみ会は、毎月第4土曜日の午前11時～11時30分、絵本コーナーで行われています。内容は絵本、紙芝居、素話(ストーリーテリング)、パネルシアター、ペープサート、手袋人形、手遊び等です。

ただし4月は「子ども読書の日」記念行事として、12月は「スペシャルおたのしみ会」として、図書館上の3階会議室で人形劇や音楽入りの演目等、いつもより大掛かりなプログラムが実施されます。

定例のおたのしみ会は司書さんとボランティアの2名で担当し、季節や1年の行事等を考慮しながら相談してテーマを決めています。

テーマに応じてよんだり紹介したりする絵本を選び出すと、それらの本は司書さんに用意してもらっています。時には関連本として、科学絵本や図鑑を入れて下さることもあり、男の子が興味を持ってくれたりします。ある月はブックトークの組み立てに、知らなかった本も用意されて助かったというボランティアの声もありました。また事前にボランティアの昔話を聞いてもらったり、司書さんが絵本や紙芝居をよむのを聞いて、互いにアドバイスし合うこともあります。

図書館のおはなし会は参加の子どもたちの年齢が不特定で、プログラムの準備に難しい面があります。当日の参加

者によって、よむ絵本を差し替えることもあり、年齢に幅を持たせて本を用意しておくことも必要です。その意味でも、司書さんとボランティアが相談し、打ち合わせをすることが大切になります。これからも司書さんとボランティアが協力し合って、楽しいおたのしみ会を作っているよう願っています。(奥坂)

「図書館で発表会」の開催を通して

「図書館で発表会」は、2010年度、けやきが「公共図書館の存在の大切さを認識し、広くアピールする」ことを活動テーマとして進めていく中で生まれました。図書館の理解協力を得て、昨年度で3回目となりました。出品者は、小学生から大人まで、参考にされた本のジャンルも様々で、バラエティーに富んだ展示となっています。

図書館にはすべての人が必要としているものがあります。「図書館の本・新聞・CD等をどのように活用していま

すか。図書館利用で、こんなことができたということを発表しませんか」という呼びかけのチラシをけやきで作って、図書館に置いてもらいました。図書館で、作品の受付・返却してもらえらることになりました。参考図書は、すぐ借りられるよう、図書館で用意していただきます。作品展示は、けやきのメンバーでします。展示用のパネル・セロテープなどと共に、出品作品のタイトルや説明文も図書館で用意していただき、展示作業にすぐ取りかかることができ、助かっています。さらに、図書館のアイデアで、作品返却のときに、展示の様子の写真をお渡しし、出品者からいい記念になると、喜ばれています。利用者の方と直接接することから気づく心遣いに、感心し、うれしく思っています。

このように、ともに活動し、アイデアを出し合いながら、図書館の素晴らしさがアピールできたらいいと考えています。(田中)

左京図書館は日々前進中!

左京図書館が、新築された左京合同福祉センター2階に移転開館して14年が過ぎた。旧図書館が現図書館の半分の広さもなかったことを、ご存知ない利用者も多いだろう。入り口すぐのコレクション床の絵本コーナーやトイレ、書架の高さや間隔・配置など、利用者の声を集約した新左京図書館を考える会(図書館友の会けやきの前身)の要望が大きく取り入れられ、新図書館は誕生した。

さらに、こういった施設設備面だけではなく、日常の図書館業務・図書館運営の面でも継続して利用者の声を届け利用者の立場で協力しようと、けやきの活動は始まった。だが、何しろ京都市図書館で初めての友の会であり、正直なところ我々も自分たちの活動スタイルを築くのに時間がかかり、図書館の職員さんも当初は戸惑われたと思う。

まず、1999年新図書館オープンとともに、月1回の子どもの向けの「おたのしみ会」にボランティアも参加することになった。ボランティアが司書さんに代わってまると引き受けるのではなく、司書さんとともに準備し開催する中で互いに学び刺激あつて内容の充実したおたのしみ会を作ろう、と願ったことである。別項にあるように年々司書さんとの連携は深まっている。

また、「名画上映会」や「大人のための語りを楽しむ会」「講演会」といった旧左京図書館時代にはなかった大人向けの行事も、企画から協力して始めた。

さらに、2003年から保健センターで絵本ふれあい事業が

始まると、それに連携するかたちで、いち早く週1回の「赤ちゃんに絵本をサポーター活動」を立ち上げた。おはなし会形式ではなく個々の赤ちゃんに寄り添った形で親子に絵本の素晴らしさを紹介しようと、マンツーマンで絵本を読んだり本に関わる相談にのつたりの独自のスタイルで活動を続けている。当初は、「赤ちゃんが立派な図書館利用者であること」が他の利用者に理解してもらえるか危惧されたが、図書館とともにニュースレター等で主旨の理解を訴え、今では赤ちゃんの図書館利用がとてもスムーズに広まっている。

この14年の間には、京都市図書館全体で開館時間の延長やコンピューターネットワークの構築も行われ、便利になった(ちなみに地域館で最初に夜間開館が開始されたのは左京図書館)。しかし財政難のため、新図書館の建設は見送られ資料もなかなか増えず、人件費の削減も行われていると聞く。

そんな中、左京図書館では、けやきの提案に応えるだけでなく、館長さんの報告にあるように、司書さんや職員さんが非常に積極的に図書館運営に取り組んで図書館のあちこちに様々な試みや工夫がなされており、本当にうれしい。毎週木曜日の「赤ちゃんに絵本をサポーター活動」に養正保育所・錦林保育所の保育士さんが参加されたり、8月には岡崎いきいき市民活動センターと共同主催で音楽話会が図書館で開かれるなど、左京区内の他の市の施設との連携も深まっている。我田引水になるが、前述のような利用者側からの提案や

取り組みを続けてきたことが、図書館員の面目発揮に少なからぬ刺激になったかと思う。これからも、図書館友の会として、ネガティブな「文句・苦情」ではなく、ポジティブな「提案・協力」を続け、図書館をバックアッ

プしたい。

狭い蔵書も代わり映えしないし…と、しばらく左京図書館を利用していない方、ぜひ再訪を。 (永井)

けやきの活動 2013年5月～7月

- 5/13 ニュースレター41号、総会・図書館懇談会・ボランティア交流会の案内、活動報告を印刷・発送
- 5/31 左京区ボランティア連絡会出席 (永井)
- 6/月上旬～ ニュースレター42号原稿作成・編集
- 6/10 第15回定期総会、第9回図書館懇談会、第1回ボランティア交流会を開催
- 7/29 ニュースレター42号印刷・発送
- 7/末～ 「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打ち合わせ、資料作成・印刷

<図書館おたのしみ会に協力> (第4土曜) 5/25.6/22.7/27.
 <絵本学習会> (第4金曜日、3.7.9月は第2金曜日) 5/24.6/28.7/12.
 <事務局会議<図書館とのミーティング> (主に第1月曜) 5/13.6/3.7/1.
 <絵本コーナーで「赤ちゃんに絵本を」サポーター活動> (毎週木曜日10:30-12:00)
 5/2.9.16.23.30, 6/6.13.20.27, 7/4.11.18.25.

けやきの

本棚 42

私

おすすめの
本

みんなを好きに 金子みすゞ物語

矢崎節夫著 JULA出版局 2009年

「金子みすゞ」ってどんな人?って思った時に出会った本です。ふるさとのこと、小学・女学校時代から童謡詩人になり、26歳という若さで生涯をとじたことなど29篇の童謡をはさみながら教えてくれています。かなしさ、さみしさを抱きながらも「私はすきになりたいな、何でもかんでもみいんな…」と歌ったのです。

(「赤ちゃんに絵本を」サポーター・ふじた)

みどりのゆび

モーリス・ドリュオン作 安東次男訳

岩波書店 1965年

やさしくて勇気のある少年チトは、「花を咲かせる」魔法が使える指を持っています。陰気な刑務所、荒れた貧民街、病気の少女…、チトの魔法で咲き乱れる美しい花を見た人々は、みな幸せになってゆきます。遠い国で恐ろしい戦争が起こっていることを知ったチトはこの指で…子どもの心の純真さが胸を打つお話です。(左京図書館・延末裕子)

信濃追分文学譜

近藤富枝著 中央公論社 1990年

(中公文庫 1995年)

浅間山を望む宿場町・追分宿は、大正から昭和にかけて、芥川龍之介、堀辰雄、立原道造ら多くの作家・詩人が集い、彼らの作品の舞台となった場所である。追分の山荘に暮らす著者が、彼らが紡いだ名作の舞台裏、人間模様を浮き彫りにしている。堀辰雄の散歩コース、お気に入りの石仏など、作家の息遣いが感じられる空間に、この本を片手に出かけてみたくなる。信濃路文学散歩のガイドとしてもおすすめ。

(左京区・もりのやまね)



2013年度活動テーマ

「図書館は市民に必須の公共施設であることを引き続きアピール」

REPORT 図書館友の会けやき総会・図書館懇談会とボランティア交流会 2013年6月10日

2013年度けやき総会

6月10日に「2013年度図書館友の会けやき」の総会を開催しました。今年も、来賓には古川左京図書館長、吉田区社協事務局長のお二人をお迎えしました。

まず古川館長から日頃のけやきの活動に敬意を表しますと挨拶があり、図書館の状況について説明がありました。暫定数値ではあるが、平成24年度の全市の貸出冊数は減少しているが、システム更新による休館のため年間開館日数も減っており、1日当たりの貸出冊数としてはほぼ横ばい。インターネット予約は利便性から必要不可欠なものとなってきたり、さらに使いやすくするため、ネットワークを更新し、ホームページをリニューアルした。また平成25年度のアルバイト賃金や運営費は削減されたとのこと。今後もけやきとともに様々な取り組みを

進めていき、活動の輪が広がっていくように思っているとのことでした。

吉田事務局長からは、日赤共同募金が年々減少、ボランティア団体への助成も減少しているというお話がありました。

その後、2012年度の活動報告、会計報告が承認。また年々図書館友の会の活動が理解されて、左京図書館との協力関係がさらに良好になっていることや、左京図書館の行事に積極的に参加されるボランティアが増えたという報告がありました。

今年度の活動方針については、財政難や指定管理者制度など課題が山積している中、「図書館は市民に必須の公共施設である」ことを、多くの人に知らせ、注目してもらえるように活動を続けることになりました。

図書館懇談会

総会の後、今回で9回目となる図書館とけやきの懇談会が開かれました。まず最初に、古川館長と前田司書に左京図書館の利用状況や課題を報告していただきました。

【古川館長】

- ・京都市全体の個人貸出冊数は昨年度約755万冊、左京図書館はその内約48万6000冊。予約数（左京図書館受け取り）は約14万6000冊（前年度より3000冊増）。
- ・3月～5月に職員異動があり、今年度は職員9名、臨時職員6名（短時間勤務のものを含む）の構成。図書館ボランティアとして16名が登録。
- ・けやきの左京図書館への支援は赴任前に想像していた以上のものであり、大変感謝しています。
- ・この1年間、職員同士の話し合いの機会を持ち、意見を出し合って、効率的な作業が行えるよう動線の工夫などを行いました。そういった取り組みをすることによりさらに職員からのアイデアが出て、展示の増設や、特設コーナーの新設につながっていききました。職員は、来館者にとっていつも何か発見があるような取り組みをしていこうと努力しています。
- ・来館者による路上駐車について、近隣から苦情がきています。ルールを守った来館にご協力ください。

【前田司書】

- ・けやきとの関わりがよい刺激となっています。学ばせていただくことが多く、司書も積極的に取り組んでいきたいと考えているところです。
- ・「赤ちゃんに絵本を」の活動は、参加するお母さんにも心強い場になっています。赤ちゃん連れの方の来やすい場所となるように考えています。
- ・お楽しみ会は、親子で参加してくれるリピーターの方もあり、紹介した本が借りられることも多く、本との出会いを楽しんでいただいている実感があります。
- ・行事については、図書館をよく使ってもらうため、新しい利用者の開拓になっていると思うので、広報に力を入れたいと考えています。
- ・カウンター業務については、人事異動後、効率的な仕事の仕方を模索中。司書の思いとしては、気持ちよく利用してもらうために明るく丁寧な対応を心がけるとともに、館内で本を探しやすくする方法も考えているところです。
- ・色々な視点の展示コーナーを作ることにより、埋もれている本にも光を当てたいと考えています。
- ・地域情報の発信については、展示を常に美しくするようにしています。
- ・「生活の中に図書館を」という利用者が多いので、ま

すます提供に努めていきたいと思ひます。

その後、参加の利用者から次のような発言がありました。(◆利用者)

◆図書館のパンフレットを他の施設に置く等、発信を強化しては？

古川：京都新聞にお願いして、今年度から「まちかど」欄に赤ちゃん絵本やお楽しみ会の取り組みについて掲載してもらっています。また、ホームページになるべく早く、行事等の予告・報告(写真を含め)を掲載して発信するなど、有効活用を図っていきたくて考えています。

◆図書館からの情報発信としてメルマガはどうか。若い人は見るのでは。

古川：メルマガは現行のコンピュータシステム上対応が難しいと思ひます。

◆利用者の意見を意見箱を設置してキャッチしては？

古川：カウンターに意見箱はあるのですが、目についていない様子。意見が入っていることは少なく本のリクエストが入っていることもあります。

◆「図書館の自由に関する宣言」をわかりやすく掲示してはどうか？

古川：ちょうど今検討しているところです。(その後、7月からカウンター横に掲出してあります。)

◆外階段の目印のペンキが薄くなっていて危険。

古川：施設管理の担当に塗り直しを要望します。(その

後、8月上旬、作業実施予定)。

またアンケートで寄せられた以下の様な感想や要望も図書館に伝えました。

・本の福袋、館内の飾り、司書さんの工夫を楽しみにしている。

・地域住民の図書館としての努力を続けてほしい。

・図書館外で、「図書館」についてアピールする掲示などしては。

・購入費の削減は理解しているが、他館からの取り寄せが多い。絵本はもっと揃えてほしい。

・絵本について、お薦め本を紹介しても、現実に左京図書館にはない。

・わらべ歌の本や雑誌の定期購読をお願いしたい。

さらに古川館長から、新しい取り組みとして「協力貸し出し制度」が紹介されました。例えば、町内会や子ども会のような団体で、1ヶ月間50冊を限度に貸し出がでる制度です。団体の要件など、まずは図書館に相談してくださいとのことでした。

図書館の実情や運営の工夫なども知ることができ、また私たちの声も伝えることができました。今後もこの図書館懇談会の機会を大切にしていきたいと思ひます。

初めて実現した ボランティア交流会

左京図書館では、けやきのほか、京都市図書館が募集した図書館ボランティア(※右記参照)や同じ建物内にある左京老人福祉センター利用者の希望者など、いろいろな立場の方がボランティア活動をしています。

これまで、左京図書館に関わるボランティアが一堂に会す機会がなかったのですが、今回、左京図書館から図書館ボランティアの方々に声を掛けてもらい、けやきに関わるボランティア14名と左京図書館の図書館ボランティア1名の合計15名の参加を得て、ボランティア交流会を実現することができました。

けやき総会・図書館懇談会の後に引き続き開催。茶話会形式で、それぞれの活動を紹介しました。

関わり方は異なるとはいえ、左京図書館で何か人の役に立ちたい、図書館に協力したい、という思いは皆同じ。いろいろな活動の様子や、喜びや悩みを知り、課題を共有することもできました。

今回初めてご一緒した図書館ボランティアの方はもちろん、けやきの活動の中でも初対面という人も多く、顔

を会わせて話をする中で、お互いの活動の幅が広がっていけばいいなと感じました。

長年の思いが実った交流会、今後もこういう機会がもてればと思います。(以上報告：けやき事務局)

京都市図書館の

図書館ボランティアとは

京都市図書館では随時募集しており、7月までに応募した人は10月から、1月までに応募した人は4月から、研修を経て希望の図書館で活動。左京図書館では現在16名が、各自の希望の活動時間に、書棚の図書の整理や図書の書棚への配架を行っている。

また、左京図書館では、図書館の下1階にある左京老人福祉センター利用者の希望者が、月1回開館前の1時間、書架整理のボランティアを行っている。

